

アイバンク設立の歴史

現在、日本には54のアイバンクがあり、(公財)日本アイバンク協会のネットワークを通じて広域での角膜幹旋が可能となっています。しかし、現在に至るまでには、遺体を神聖視する永年の思想に対する説得、進め法的整備など様々な障害が横たわっていました。それら乗り越える原点となった「盛岡事件」とアイバンク設立の歴史をご紹介します。

2

昭和31年3月
まだ角膜移植法のないままに私設の「眼球銀行」を発足させたところ、10余名の方から献眼登録があった。

そこでようやく「角膜移植」に関する法案が国会に提出されたが、審議未了に終わった。

昭和32年10月、献眼登録者の一人が亡くなられご遺族から、眼球の奇贈を受けた。14歳の岩手盲学校の女子児童に移植すると0.8の視力を得た。

これに対して新聞各紙が法律問題を前面に出して書き立てた。

早すぎた角膜移植
角膜移植法立法前の手術

「盛岡事件」の勃発である。

刑法一九〇条(死体損壊罪)に触れるか 三年以下の懲役か

1

アイバンク設立の歴史 ～ 原点となった「盛岡事件」～

昭和24年春 今泉徹教授は岩手医大に赴任した。当時トラコーマが蔓延していた岩手と青森の盲学校には手術で見える可能性がある生徒が200人以上いた。

今泉教授は、昭和24年11月日本で初めて角膜移植を患者の摘出眼で成功させた。その後も患者からの摘出眼に加え、死体眼による角膜移植も行っていた。

角膜移植で闇の世界から救ってあげたい。日本の眼科医が外国に遅れをとってはならない。

昭和25年8月
岩手日報
五十七歳の男性 角膜移植成功!!
亡くなった人からの角膜提供を受け、十数年振り光を取り戻す。

角膜移植によって光を取り戻したうちの一人が新聞で報道されると紙面は喜び一色で飾られた。

これを知った、全国の篤志家から激励文と多額の寄付が寄せられ盲人に光を与える運動が市民の間に広がった。

4

昭和32年12月「角膜移植法案」が国会に提出され、昭和33年4月世論を味方に衆参両院にて可決され、「盛岡事件」は無事結着した。

1か月後、今泉教授は盛岡地検から事情聴取を受けたが、法曹界の権威や専門家がこぞって角膜移植の合法性を主張し教授を励ました。

その後、続々と各地にアイバンクが設立され、現在54箇所となっている。

愛媛アイバンクは昭和61年にライオンズクラブ、愛媛県眼科医会、行政の協力を得て設立された。

現在までに延べ15000名余の献眼登録があり4000名余の方々が光を取り戻している。

皆さま、人生を全うした時には光のリレーに是非ご協力をお願いします。

マンガ/佐伯ウサギ

3

岩手医科大学

学長

また、妻に刑務所に入るかもしれないことを告げると

あなたに立派な人助けをしたことを家族は誇りに思っています。

人を助けるためにやってそれで罪に問われるなら私も君と一緒に投獄されましよう。

厚生省
警告
角膜移植法立法前は、死体から眼球を摘出しないように

旧厚生省からは警告がなされた。